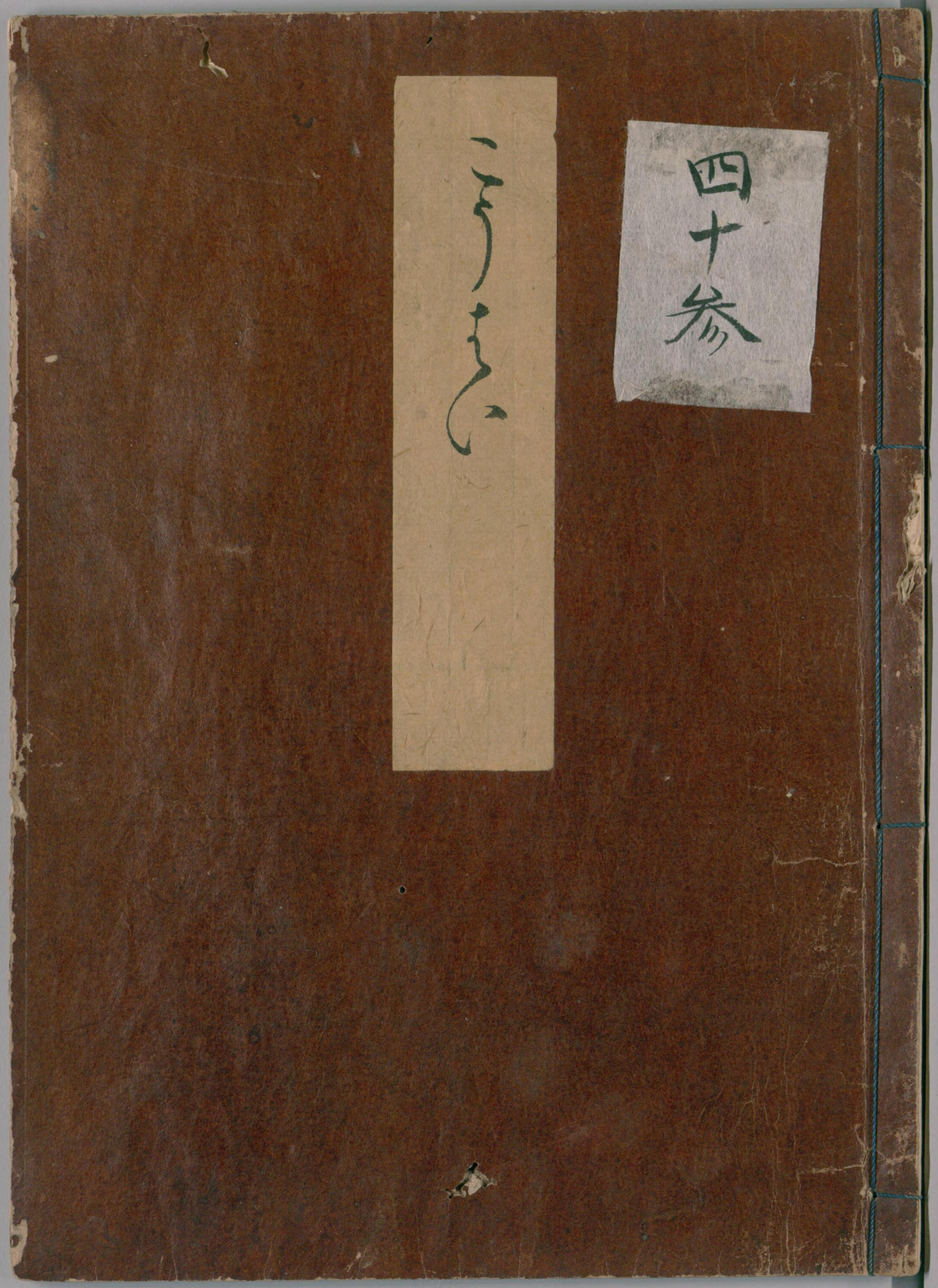

国立国会図書館　　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

第四十三

共五十四巻

渡利邑

松浦氏

2011.26 国会図

所れしろわぎちの大納言とさこ也おきこちじ此
おとゞの二帝なるとうせ行ひ申し浦の響れさし所ゑ
ゆゑうもよりらうくしうちなやりならむぞん相
し行ひし人まてなりのなるを給ふ年月まうへく
まひていくよにはうひかりあらまりしうかて
なし所おぼしいややむごとなりまり和のうく
ふくを相し給ひしをかとよりのきなくなりかて
今そのし給ふをおちのおぼされとゞの浦むをあ
其本ぐしらるれがくくしのひし君を式アツの
宮まて出給ふのうきてりあるをさきちり行へ
つまし給みくうをのふておちきのびにくふひ給

しかど年月ふれば、えさしもはゞかり給はぬなめ
り。御子は故北の方の御腹に女二人のみぞおはしけ
ればさう〴〵しとて神仏にいのりて今の御腹に
ぞをとこ君ひとりまうけ給へる。故宮の御方に女君ひと
ところおはす。へだてわかずいづれをも
おなじごと思ひきこえかはし給へるを、おの〳〵
御かたの人などはうるはしうもあらぬ心ばへうち
まじりなまくね〳〵しきことも出でくる時〴〵
あれど北の方いとはれ〴〵しくいまめきたる
人にてつみなくとりなし、わが御かたざまに
くるしかるべきことをもなだらかにきゝなし思ひ

なをし給へばきゝにくからでめやすかりけり。君
たちおなじほどにすぎ〳〵おとなび給ぬれば御裳など
きせたてまつり給ふ。七間の寝殿ひろくおほきに
つくりて南おもてに大納言殿おほい君
にしに中の君ひんがしに宮の御かたと
すませたてまつり給へり。おほかたにうち思ふほどは
ちゝ宮のおはせぬ心ぐるしきやうなれど、こなた
かなたの御たからものおほくなどして、うち〳〵の儀式
ありさまなど心にくゝけだかくなどもてなして
けはひあらまほしくおはす。例のかくかしづき給ふ
きこえありてつぎ〳〵にしたがひつゝきこえ給人お

まろ美宝の御こと紙いう天結記く春日の神の御
あとはいとも わが御世にやもしいぐさて こちぐ御
ゐん（冷）の女御（あつか）の御まし をむかひ くくおりしてやこ
まし なぐ御りのことあらなんとみのうちうし
いれ まくまいらをたてまつりのふつ いまとさめ天
のふよしんてやまゐられ御まじらひのまれ給ひ
ぬをやこにたがぐし天御うしろみなくていぐと
て和（まきえしらの君）のうへひてさふひのふむ天あとまかぎり
をなく思ひうづまうしろ中まくのふとの（あせちのり）をつれく
なりしちして西の御うへをひとに御まなりひめて
いとさうく志うながの給ふ東の姫君もうとく

しきかくみまりてまし給ひて よろしくゝ宝と所
におもとのごもりよろ川の御こと（翌うし）なりひ たりなれ
御あうひまさをもてなるを師れやうは思ひやし
てぞ左連もおらひあうびのまゐる袍（宝ノ姫キミ）をとの書
なりぞし給ふ母（玄本在）小事うしぶに御やうにぞ御さく
御しひうひをわ給ひずうへまなりまてかくなし
のふ物うしむしへけらひのむも連ろさ海なら
ぞあい行ぞ天のうへまし（将）たる人よりまぐれ のへ
うく内無りやなにやや（名）まがかさざ（和ノ心）御をのこ思ひ
いぐくやうなりをんぐるしなとおりしてあるべ
うらん御まに御りしさぐめての給へおりし（和ノムスメト同ず）こと

さうぞくまゐらせ給ふ木枯の侍
のもとや小うち
ぬさ奉らせ給ふ夜思ひ
遣りなくなれ
むぐらうるでし時
む限りみまし後ぞあ
つれもまうでつ人
とゆふしてうるまゐ
きて此ひめ君
のけうあるなくてすぐし
のけうあるなくてすぐし
うろきうきたくとどまりて
ばひうくくなりてみを
うき色なるものうへ
うくるおもひやる
おぼゆる人の
沈人まをくと思ひを
海のさうずやうくと
やすらづくけまゐ
叶へ給へとぞ

蛍ノ巻ノ尼ニ

蛍ノ巻ノ
巻

蛍ノ巻ノ
物ハデテ
大川ヲ
三毛對面
ナキトゾ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

しう也ひきこえ給ふ月ごろなやみなく物さえあり
三位将は源にの君をぞまうけゝるさてぞひとしく
なりゆけにける右の大臣の御むすめをえたれどをさをさ心も
とめで給ふあともまぎらはしくやうやう見えつゝ
むなたちのてならひにもいひくさにもするは物の心の
なりおほしく御心をとゞめてきこえさせ給ふへき
きさきの宮とゞめてきこえさせ給ひしやうの
みこのわたりにもあらで給ふみちしるべなりけり
こちの人のかたはらにてさぶらひ給ふにこそ
見給ひしかどさるべきことをうちとけてまかでさせ
給ふともなく又御ためのびんなき事の若う聞えさせしむ

手ナトハ
紅梅ノ
身ノ上ニ

下手
紅梅ノムスメ
翁
世

登給ふ故六条院の院の御方へ　まそ左のおとゞうせ
給ひて右は左にとかく右大臣になり給ひて源中納言も宰相もみなよろこびし
給ひしかば世の人のところせきまでいひさわぎ給ふ
おとこ君たちみなおなじくおほやけにつかうまつり給ふ
ふてひとつのありさまのひとつにひとしうならひ
なりとも見てきこえぬ物から心にくゝおぼえ給ふも
ひめ君の御かたには院の御ゆるしありて参り給ふ
中納言のきみさふらひ給ふにつけても此御方をばいかに
物なれてまかでさせ給へるほどもありしやうに見えて
御心ありしにおぼえ給ふにも女の御事とのみおぼえて
さのみさればこそとかゝるうきよのこと心やすくおぼしなりて

源
源
宰ノ娘
源
右
白
ヌ香
吉
翠

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用